

平成 27 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス						
教科目名	プログラミング	担当教員	出口 利憲			
学年学科	2 年 電気情報工学科	通年	必修	2 単位		
学習教育・目標	(E) 1 0 0 %					
授業の目標と期待される効果： C 言語のプログラミングを通じて、手続き型のプログラミングの基本的な概念を習得する。 (1) C 言語のプログラムを理解する (2) C 言語の簡単なプログラムが作成できる (3) 有用なアルゴリズムを理解する (4) データの表現方法を理解する (5) 実際にアルゴリズムやデータ表現を利用する (6) 実際にプログラムを作成し、実行する		成績評価の方法： 前期：中間試験 100 点 + 期末試験 100 点 + 演習レポート 100 点 後期：中間試験 100 点 + 期末試験 100 点 + 演習レポート 100 点 学年：定期試験 400 点 + 全演習レポートを 200 点に換算 得点率 (%) で成績をつける 達成度評価の基準： (1) C 言語のプログラムを読み、理解することができる (2) C 言語の簡単なプログラムを作成することができる (3) 授業で扱ったアルゴリズムを理解している (4) 授業で扱ったデータの表現方法を理解している (5) 実際にアルゴリズムやデータ表現を利用できる (6) 実際にプログラムを作成し、実行できる				
授業の進め方とアドバイス： 授業は板書を中心に行なうので、各自学習ノートを充実させること。 必要に応じて演習を行なうので、積極的に行ない、レポートを作成すること。						
教科書および参考書： 新・明解 C 言語 入門編 (柴田望洋, ソフトバンククリエイティブ) を教科書とする。						
授業の概要と予定：前期						AL のレベル
第 1 回：最も簡単な C プログラム						
第 2 回：画面表示						
第 3 回：整数の計算						
第 4 回：演習 (コンピュータの使い方, 整数の計算)						C
第 5 回：実数の計算						
第 6 回：演習 (整数・実数の計算)						C
第 7 回：誤差, 数学関数						B
第 8 回：中間試験						
第 9 回：繰り返し 1						
第 1 0 回：演習 (繰り返し 1)						C
第 1 1 回：繰り返し 2						
第 1 2 回：演習 (繰り返し 2)						C
第 1 3 回：キーボード入力						
第 1 4 回：条件分岐 1						
第 1 5 回：演習 (条件分岐)						C
期末試験						
第 1 6 回：フォローアップ (期末試験の解答の解説など)						

授業の概要と予定：後期	AL のレベル
第 17 回：関数	
第 18 回：引数の渡し	
第 19 回：変数の種類	
第 20 回：演習（関数）	C
第 21 回：構造体	
第 22 回：構造体	
第 23 回：演習（構造体）	C
第 24 回：中間試験	
第 25 回：関数と構造体	
第 26 回：演習（関数と構造体）	C
第 27 回：配列	
第 28 回：多次元配列	
第 29 回：演習（配列）	C
第 30 回：ソート	
第 31 回：演習（ソート）	C
期末試験	
第 32 回：フォローアップ（期末試験の解答の解説など）	

評価（ルーブリック）

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 （優）	標準的な レベルの目安 （良）	未到達 レベルの目安 （不可）
(1)	C言語のプログラム理解に関する問題を正確（8割以上）に解くことができる	C言語のプログラム理解に関する問題をほぼ正確（6割以上）に解くことができる	C言語のプログラム理解に関する問題を解くことができない
(2)	C言語のプログラム作成に関する問題を正確（8割以上）に解くことができる	C言語のプログラム作成に関する問題をほぼ正確（6割以上）に解くことができる	C言語のプログラム作成に関する問題を解くことができない
(3)	アルゴリズムの理解に関する問題を正確（8割以上）に解くことができる	アルゴリズムの理解に関する問題をほぼ正確（6割以上）に解くことができる	アルゴリズムの理解に関する問題を解くことができない
(4)	データの表現方法に関する問題を正確（8割以上）に解くことができる	データの表現方法に関する問題をほぼ正確（6割以上）に解くことができる	データの表現方法に関する問題を解くことができない
(5)	アルゴリズムやデータ表現を実際に利用し、これについて正確（8割以上）に説明することができる	アルゴリズムやデータ表現を実際に利用し、これについてほぼ正確（6割以上）に説明することができる	アルゴリズムやデータ表現を実際に利用し、これについて説明することができない
(6)	実際にプログラムを作成・実行し、これについて正確（8割以上）に説明することができる	実際にプログラムを作成・実行し、これについてほぼ正確（6割以上）に説明することができる	実際にプログラムを作成・実行し、これについて説明することができない